



## 特別展「ラッパの世界」

3月26日(土)から開催されていた特別展「ラッパの世界」が5月8日(日)に終了しました。会期中の入場者は6,016人。この展覧会は、トランペットやホルン、トロンボーンといった私達がよく知っているラッパから、インドやチベットのラッパまで、世界のラッパを幅広くとりあげて、ラッパのルーツとおもしろさを紹介しようとするものでした。

素材のコーナーでは、アフリカのヒョウタンでできた大きな「アブー」、丸太をくりぬいて作ったパプアニューギニアやアフリカの横吹きトランペット、アフリカの象牙ホルン、ユーカリの木でできたオーストラリアの「ディジェリドゥー」、人の大腿骨でできたチベットの「ガニラン」、インドネシアの竹のトランペット「バス」などが展示されました。

長いラッパのコーナーでは、おなじみスイスの

「アルプホルン」、イランの「カルナーイエ・ショマール」、チベットの「ラグドゥン」が目を引きました。ヨーロッパのぐるぐる巻いたフレンチホルンをまっすぐに伸ばした3メートル以上もある模型には驚きました。

ヘビとドラゴンのコーナーでは、ヨーロッパで17世紀から19世紀にかけて使われた、クネクネ曲がってヘビのような「セルパン」、ベルがドラゴンの顔になっている「ラッシュン・バスーン」やトロンボーンの「ピュサン」、インドの「ナラスリンガ」が展示され、形の面白さが人気でした。

トランペットの歴史のコーナーでは、管を曲げただけの「ナチュラル・トランペット」からキー付き、バルブ付きと時代とともに構造が複雑になってゆく様子がよ





くわかりました。

体験コーナーでは「セルパン」と「コルネット」を自由に吹くことができ、多くの皆さんが音出しに挑戦されました。

そのほか、幕末に黒船が日本に来航した時、一行の軍楽隊が使用していた「オフィクレイド」、有名



な管弦楽曲「展覧会の絵」で使われる「フレンチ・チューバ」、アメリカ合衆国の南北戦争時代に流行したベルが後ろ

向きについている「オーバー・ザ・ショルダー・サクソルン」、ベルが7つもある「サクソルン」など、珍しい楽器の実物が展示されていたり、トランペットを工場で作る様子が紹介されたりと、ラッパの魅力満載の展示に多くの人が見入っていました。

展示のほかにも講演会とミニコンサートが開かれました。ミニコンサートは、まず4月17日に地元浜松学芸高校の松浦謙氏によるナチュラルホルン。ベートーベンのホルンソナタをパルプのない当時の構造のホルンで演奏。唇とベルに突っ



コルネット(上)セルパン(下)に挑戦

込んだ手の調節のみで演奏する方法に、聴衆は驚いていました。またゴムのガス管のホルンも登場して会場には笑いがあふれました。5月1日は当館職員によるアルプホルンの紹介。3日は名古屋芸術大



学教授竹本義明氏による「トランペットの歴史」。コルネットから現代のトランペットまで、実物を使いながら

の演奏で楽しみました。4日は「19世紀の金管アンサンブル」。佐伯茂樹氏他の演奏でE♭管ピュージュル、B♭管コルネット、ピストン・ホルン、テナー・トロンボーン、それにチューバの前身オフィクレイドという珍しい楽器の組み合わせによる金管五重奏を聴くことができました。曲は150年前に作曲されたジーン・ペロンの金管五重奏曲第2番。ホルン



やチューバを含む金管五重奏曲の最古のものでした。現代の楽器のような華やかさはありませんが、まるで木管五重奏のような柔らかな響きが興味深い演奏でした。5日は神代修氏による「19世紀のトランペット」。当館所蔵の19世紀の長管トランペット、フリューゲルホルン、コルネットを使っての演奏。ベルディのアリアなどをしっかりと聞かせました。ミュージカル「キャッツ」から「メモリー」のほか、「赤とんぼ」や「浜辺の歌」などなじみのある日本の曲もあって、会場の子どもからお年寄りまで楽しめました。

また4月29日には山西龍郎氏による講演会「ホルンが響いたヨーロッパ中世の都市と森」。13~14世紀の中世ヨーロッパの都市で鳴り響くトランペットやコルネットや角笛、都市の外に広がる森で聞こえる狩猟ホルンや街道に響くポストホルンなど、ヨーロッパ中世の音について興味深いお話を伺いました。(K.S.)

#### 〈大人気だったミニコンサート〉



「ナチュラルホルン」



「トランペットの歴史」



「19世紀の金管アンサンブル」



「19世紀のトランペット」

# 企画展「カリブのスチールパンと鉄の響き」まもなく開催

期間：平成17年 7月20日(水)～ 8月31日(水)

会場：浜松市楽器博物館地下1階第2展示室ステージ、第3展示室

鉄と人間との付き合いは、宇宙から降ってきた隕石に含まれていた鉄のかたまりや、山火事や溶岩の流れが、鉄の原料となる鉄鉱石を高温で焼いてできた鉄を利用したのがその始まりといわれています。どちらにしても、鉄は自然の状態で存在することはなく、神がもたらした特別なものとして大切にされました。

鉄や青銅などをたたいた時の音の響きの中にも、人々は神や崇高な存在をみたり、心を躍らせたり

と、不思議な力を感じていました。本企画展では、鉄をはじめとする金属でできた世界中の様々な打楽器を展示して、人間が鉄に寄せた思いを紹介し

ます。また、富田晃氏(弘前大学助教授)撮影による、スチールパンのふるさと、カリブ海に浮かぶトリニダード・トバゴのカーニバルやスチールパン製作の様子、生活風景などの写真展示も今回の企画展の魅力です。ぜひお越しください。

## おもな展示予定楽器



スチールパン(トリニダード・トバゴ) ジャワ・ガムラン(インドネシア) カリンバ(タンザニア) 編鐘(左:中国、右:韓国)

関連事業「スチールパンのギャラリートークとミニコンサート」日時：7月30日(土)、31日(日)14:00 会場：地下展示室  
トーク：：富田晃(弘前大学助教授) 演奏：弘前大学スチールパン部

## レクチャーコンサートが開催されました。



第55回 ウィーンの音～ワルター・ピアノ～  
平成17年 5月20日(金) 19:00～  
アクトシティ浜松音楽工房ホール

楽器博物館所蔵の1810年頃ウィーンでワルターにより製作されたフォルテピアノと、フォルテピアノの世界的名手である小倉貴久子さんを約130人のお客様が囲み、19世紀初頭のサロンコンサートの雰囲気を楽しみました。

このコンサートでは、温かなスポットライトが照らし出す陽だまりのようなステージで、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトなど、当時ウィーンでワルターを愛用した作曲家の作品が演奏されました。そのまろやかで質感のある響きが広がり、会場はウィーンの香りに包まれました。



第56回 心に問かける音楽～箏曲八橋流～  
平成17年 6月18日(土) 14:00～  
アクトシティ浜松音楽工房ホール

江戸時代から長野県松代町で大切に伝えられてきた、八橋流箏曲。自らの心を見つめて弾く、まさに心に問かける音楽です。

この貴重な八橋流箏曲のコンサートが開かれました。演奏は清水良さん、横田裕子さん、てん・人智さん。てんさんによるお話もまじえながら、当館所蔵の箏を使って「六段の調」や「四季の曲」など7曲が演奏されました。会場の135人のお客様は、一つ一つ丁寧に生み出される歌声と箏の音色に、静かに聞き入っていました。

## 5回連続講座「19世紀のピアノと社会」

### 第1回「ピアノを弾く身体」

5月28日(土) 19:00~20:30

参加者39人

静岡文化芸術大学講師小岩信治氏をコーディネーターに、毎回ゲストを招いてのピアノ文化講座。第1回は京都大学人文科学研究所助教授岡田暁生氏がゲスト。ホロピッツに象徴されるような、華やかな演奏、リストの作品にみられるような、オペラ作品からの編曲の隆盛、新興上流市民階級のピアノ熱など、華やかな19世紀のピアノ界、オペラ界の様子を概観しました。



### ◆これからの催し物

- **ギャラリートーク 毎日曜日**  
展示室ガイドツアー 展示品の解説  
ミニコンサート ミ芸員やゲストによる演奏  
※内容・時間はお問い合わせ下さい。
- **展示品の演奏デモンストレーション 毎日10:00~16:00**  
1時間毎 チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- **講座「19世紀のピアノと社会」第2回「フォルテピアノと個性」**  
7/2(土) 19:00 展示室  
コーディネーター：小岩信治(静岡文化芸術大学講師)  
ゲスト：小倉貴久子(東京芸術大学講師・ピアニスト)
- **企画展「カリブのスチールパンと鉄の響き」**  
7/20(水)~8/31(水) 地階展示室 常設展観覧料のみで  
ご覧いただけます。  
ドラム缶からきたスチールパンや青銅の豊かな響きのガムラン  
など、世界の金属打楽器を紹介します。
- **ギャラリートークとスチールパン・ミニコンサート**  
7/30(土), 7/31(日) 14:00 展示室  
トーク：富田晃(弘前大学助教授)  
演奏：弘前大学スチールパン部
- **レクチャーコンサート**  
「中国情歌~二胡と古箏」  
8/28(日) 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール  
演奏：張勇(二胡), 李晶(古箏)  
「イギリスのチェンバロ音楽~カークマン・チェンバロとスピ  
ネット~」  
10/2(日) 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール  
演奏：中野振一郎(チェンバロ)
- **講座「楽器の中の聖と俗」**  
第33回 9/24(土)「宗廟大祭の響き~韓国ソウル~」  
第34回 10/22(土)「東巴文化の音風景~中国雲南省麗江~」  
第35回 1/21(土)「黎族のバンブーダンス~中国海南島~」  
アクトシティ研修交流センター  
講師：西岡信雄(大阪音楽大学長, 浜松市楽器博物館名誉館長)
- **世界の楽器体験ワークショップ「ジェンベ」**  
8/20(土) A 13:00~ B 15:00~  
講師：寺崎卓也(ジェンベ演奏家)
- **世界の楽器体験ワークショップ「バンジョー」**  
8/21(日) A 13:00~ B 15:00~  
講師：原さとし(バンジョー演奏家)

### ◆博物館日誌

- 3/26(土)~5/8(日)  
特別展「ラッパの世界」 地階展示室  
入場者：6,016人
- 4/29(金)  
特別展講演会「ホルンが響いたヨーロッパ中世の  
都市と森」  
14:00 アクトシティ研修交流センター51研修  
交流室  
講師：山西龍郎(武蔵工業大学教授) 参加30名
- 5/1(日)  
特別展ミニコンサート「アルプホルン」(当館職員)  
地階展示室 参加者64名
- 5/3(火)  
特別展ミニコンサート「ヨーロッパ中世のラッパ」  
14:00, 15:30 演奏：竹本義明 参加者135名
- 5/4(水)  
特別展ミニコンサート「19世紀の金管楽器アンサン  
ブル」  
14:00, 15:30 演奏：佐伯茂樹ほか 参加275名
- 5/5(木)  
特別展ミニコンサート「19世紀のトランペット」  
14:00, 15:30 演奏：神代修 参加227名
- 5/3(火)~5/5(木)  
ゴールデンウィークにつき、開館時間を18:00ま  
で延長  
レクチャーコンサート「ウィーンの音~ワル  
ター・ピアノ~」  
19:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール  
演奏：小倉貴久子(フォルテピアノ) 参加124名
- 5/28(土)  
講座「19世紀のピアノと社会」第1回「ピアノを  
弾く身体」  
19:00 展示室 参加39名  
コーディネーター：小岩信治(静岡文化芸術大学  
講師)  
ゲスト：岡田暁生(京都大学人文科学研究所助教授)
- 6/6(月)~6/10(金)  
移動楽器博物館(浜松市立曳馬小学校)
- 6/18(土)  
レクチャーコンサート「心に問いかける音楽~箏  
曲八橋流~」  
14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール  
演奏：清水良 織田裕子 てん・仁智(箏)  
参加135名
- 6/21(火)~6/24(金)  
移動楽器博物館(浜松市立葵が丘小学校)

### ◆3月~5月の観覧者数

	3月	4月	5月	3ヶ月の合計	開館からの累計
大人	4,289	2,923	5,447	12,659	654,450
中人	592	143	206	941	26,215
小人	1,040	509	1,329	2,878	145,402
幼児	359	153	371	883	39,421
計	6,280	3,728	7,353	17,361	865,488

### 利 用 案 内

開館時間：午前9:30~午後5:00  
休館日：毎月第2水曜日(祝日の時は翌日)、年末年始、  
その他施設点検等のための臨時休館日  
常設展観覧料：個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)  
大人(大学生以上) 400円 320円 240円  
中人(高校生) 200円 160円 120円  
※中学生以下、高齢者(70歳以上)、障害者の常設展入館料は無料です。  
館内には、手荷物の持ち込みはできません。

### 浜松市楽器博物館だより

平成17年7月1日発行 No.40  
編集 浜松市楽器博物館  
〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1  
TEL. 053-451-1128  
FAX. 053-451-1129  
URL: <http://www.actcity.jp/gakki/>  
mail: [gakki@actcity.jp](mailto:gakki@actcity.jp)  
印刷 株式会社シバプリント